

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29（2017）4・24 NO4

校長 伊波喜一

つる伸びて 竿に巻きつく ニガウリの 光求めて 葉を茂らすか

4月も瞬く間に過ぎていきます。せわしい一月だったことでしょう。4月からの歩みを振り返り、5月からに活かしていきたいですね。 トマトの糖度は4～5度で、酸っぱく感じます。ところが、ブドウ並みの19度になるトマトがあるということです。その秘訣は水と肥料の出し惜しみです。ぎりぎりの環境に置かれたトマトは、養分や水分を吸収しようとして茎や葉などあらゆるところに産毛を生やします。結果として吸収効率が上がり、糖度が増します。そういえば、子どものころ食べたスイカも、砂地で育てたものの方が甘かったことを思い出しました。 概して、人は環境の変化に弱いものです。困難の壁が立ちはだかっている場合は、なおさらです。でもトマトの例のように、八方ふさがりに見えても解決の道はあります。たとえそれが数パーセントの可能性であっても、チャンスは誰にでも平等に与えられています。そう考えると、困難（だと思われること）にあえて挑む体験をすることは、個性を輝かせるための触媒と言えるかも知れません。可愛い子には「旅」が必要なのです。